

R-2 キャンドルのつどい

概 要	キャンドルの火を囲み、歌や踊りなど楽しいスタンプ（出し物）を行い、連帯感や友情を深めたり、研修のまとめや振り返る時間として自己を深く見つめたりするのに適した活動				
ねらい	自然に親しむ		仲間づくり・協調性	課題克服・達成感	 H P 詳細へ
			○	◎	
	歴史文化に親しむ		知識	創意・工夫	
条 件	場所	体育館、プレイホール、講堂		対象	小学生以上
	時間	1～2時間程度		人数	最大200名程度まで可能 ※場所により変動
	時期	通年		天候	全天候実施可
	料金	キャンドルのつどいセット（¥950）※ろうソク、燭台、衣装貸出含む			
準備物	センターが貸し出すもの			団体が準備するもの	
	☐ CD ラジカセ等放送器具 ☐ マイク ☐ 衣装 ☐ 燭台 ☐ ろうソク受け（最大10個貸出可）			☐ 料金（¥950） ☐ 火器（マッチ、ライター等） ☐ 「交歓のつどい」で必要なもの	
展 開	※詳細は「キャンプファイヤー・キャンドルのつどい実施マニュアル」を参照ください。				
	1 事前（当日までの準備） （1） 主旨や実施方法を把握する。（職員との打合せ、相談、随時受付あり） （2） 進行の流れを決め、歌や踊り、スタンプ等の準備、練習をする。 2 活動（当日の流れ） （1） 「キャンドルのつどい」の準備を行う。 →事前の準備時間として、30分程度確保をお願いします。 センター職員が支援します。お声かけください。 （燭台の準備、火の着け方、照明や放送機器について） （2） 「キャンドルのつどい」の実施（基本の3部構成で実施の時） ①第1部 迎火のつどい →全員で輪になり中央の燭台を囲み、聖なる火を持つ火の神を迎え、燭台のろうソクに点火するつどい ②第2部 交歓のつどい →みんなで歌や踊り、ゲームを行い、楽しい雰囲気の中で友情を深めるつどい ③第3部 送火のつどい →自分たちを照らしてくれた火に感謝し、仲間との一日を振り返るつどい ※ 迎火のつどい、送火のつどいについては、「進行例」の資料があります。お問い合わせください。 3 事後（片付け） （1） 用具の回収、返却 （2） 燭台を元の場所に返し、燭台や床に垂れたろうの清掃 （3） 終了の報告				
実施の留意点	○ 「キャンドルのつどい」については、原則、「キャンドルのつどいセット」を購入し、実施をお願いします。（キャンドルの持込不可） ○ 火の取り扱いには十分気をつけてください。				

キャンプファイヤー キャンドルのつどい 実施マニュアル

福岡県立社会教育総合センター
学習サポート室

キャンプファイヤー・キャンドルのつどいについて

< 活動時間(目安) >

およそ60～120分間

※夜の活動 19:00～21:00の間で実施可能

< 実施会場の収容人数 >

キャンプファイヤー		キャンドルのつどい	
場 所	人 数(約)	場 所	人 数(約)
たけのこ広場	～200人	体育館	～200人
あじさい広場	～100人	講堂	～100人
野外劇場	～50人	プレイホール	～50人

< 活動上の留意点 >

- 「火」の取り扱いには十分お気をつけください。
- 「消火」「道具等の片付け」まで、団体で責任をもって実施をお願いします。
- 開始時、終了時には必ずセンター職員までご連絡ください。
- 「キャンプファイヤー」は「雨天」、晴天時でも「強風」の場合は実施できません。荒雨天時の活動の準備もお願いします。

< 実施団体が準備するもの >

キャンプファイヤー		キャンドルのつどい	
□料金 キャンプファイヤーセット ￥1,200		□料金 キャンドルのつどいセット ￥950	
□「交歓のつどい」で必要なもの		□「交歓のつどい」で必要なもの	
□火器（マッチ、ライター等）		□火器（マッチ、ライター等）	
□トーチ（必要数）			
□灯油	□軍手		

※ 令和4年度より、セット購入団体のみの実施となりました。ご了承ください。

< センターが提供するもの >

キャンプファイヤー		キャンドルのつどい	
□薪×3束	□枕木	□燭台	□ロウソク（必要数）
□消火用バケツ	□スコップ	□ロウソク受け（最大10個まで貸出可）	
□火の神衣装一式	□CDラジカセ	□火の神衣装一式	□CDラジカセ
□マイク 等		□マイク 等	

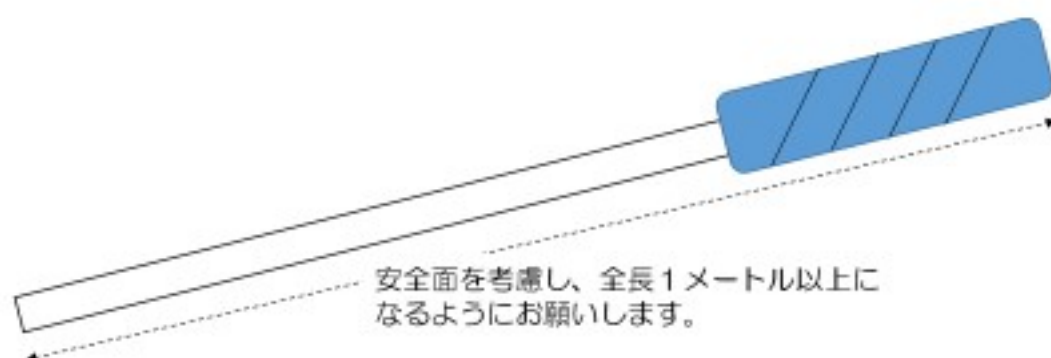
※ セット内容を含みます。

その他、要望に応じて、用具等、貸し出しできます。事前にご相談ください。

< キャンプファイヤー・「トーチ」の作り方 >

① 材料の準備をする。

- 生木などの燃えにくい棒（1m以上） □タオルなどの布（綿製が望ましい）
□針金



② 上の図のように、棒に布を巻き付けます。（20cm程）

使用する布が化学繊維の場合、燃える時に炎が垂れてしまい、大変危険です。
「綿」を多く使った布を使いましょう。

③ 布を棒に固定するために、しっかりと針金を巻き付け、完成です。

※ 例えば、センター案で実施の場合、火の神用1本、火の守用8本の計9本のトーチが必要となります。団体の実態等に合わせた実施案に合わせて、ご用意ください。

活動の流れ(キャンプファイヤー展開例)

①役割分担例 (あくまで一例です。団体の実態に応じて役割分担をお願いします。)

役 割 名	人数(人)	内 容
火の司	1	プログラム全体の司会進行をします。
営火長	1	つどいの責任者で、始まりと終わりに言葉を述べます。
火の神	1	「迎火のつどい」で、火を掲げて入場します。
火の守	4～8	分火したトーチを掲げ、誓いの言葉を述べます。
献詩係	1～2	「迎火のつどい」で、詩の朗読をします。
音響係	2	プログラムに合わせて音響・照明を担当します。
会場係	10	まき組みや後片付けをします。
ファイヤーキーパー	2	火勢の保持につとめます。(大人推奨)

②当日の事前準備

※当センター職員が支援します。上記「会場係」の児童生徒と指導者1～2名程度での実施が望ましいですが、指導者2～3名での実施でも構いません。

- ① 枕木、薪の組み立て
- ② トーチ、灯油、防火バケツ、使用機器等の準備
- ③ 衣装等の受け取り
- ④ リハーサルの実施 等

③ つどいの展開

◎「開始」の報告

⇒点火前に必ず事務室へ連絡をしてください。
内線(117) / 外線(092-947-3511)

【第1部】迎火のつどい(約30分間)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
○全体入場	全 員	火床を中心に円になる
	火の神	衣装に着用し、用意しておく
1 火の神入場	火の司	「ただいまより、〇〇(団体名)キャンプファイヤーを行います。火の神が若杉山から聖なる火を持って入場しますので、静かに見つめてください。」
	音響係	『遠き山に火は落ちて』軟なし曲を流す
	火の神	静かに入場し、火床と参加者の間を一周し、営火長の横につく
	音響係	火の神入場完了したら、音楽を止める
2 営火長はじめの言葉	火の司	「それでは、営火長よりはじめの言葉をお願いします。」
	営火長	「今、ここに皆さんの友情と団結のために聖なる火を迎えました。火は遠い昔から私たちに生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は私たちの生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることになるのです。しかし、この偉大な火も使う人の心により、人類を開拓と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。」 (右ページへつづく)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
2 営火長 はじめの 言葉	営火長	(左ページより)「今、ここに燃える火は、ここに集う私たちに、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。また、このつどいが一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、楽しい思い出となるように祈りつつ、このつどいを聞きます。」
3 火の守 へ分火 誓いの 言葉	火の司	「それでは、火の神から火の守へ分火してもらいます。火の守は、火の神の前に整列しましょう。」
	火の守	火の神の前に移動し、整列する。
	火の司	「分火」
	火の神	一人一人順序良く、火の守へ分火していく。 ※分火→火の守の誓いの言葉→次の人へ分火…を繰り返す。
	火の守A	わたしはこの火に「友情」を誓います。
	火の守B	わたしはこの火に「たえず努力すること」を誓います。
	火の守C	わたしはこの火に「尊敬する心を持つこと」を誓います。
	火の守D	わたしはこの火に「みんなと協力すること」を誓います。
	火の守E	わたしはこの火に「希望をもつこと」を誓います。
	火の守F	わたしはこの火に「助け合いの心」を誓います。
	火の守G	わたしはこの火に「思いやりの心」を誓います。
	火の守H	わたしはこの火に「家族を大切にすること」を誓います。
	火の司	「火の神より火の守へ分火されました。火の神と火の守は火床のまわりに移動しましょう。」(次ページへ)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
4 点火	火の神 火の守	等間隔に広がりながら、火床を囲むように、また、火床に向かって配置につく
	火の司	「引き続き、火の神、火の守によって中央の火床に点火をお願いします。」(少し間をとって)「点火」
	火の神 火の守	「点火」の合図で、トーチを火床に立てかけるように乗せる ※置いたら、すぐに下がること
5 献詩と 合唱	火の司	「火床に炎がともりました。皆さんが誓った思いとともに輝いています。炎を見つめながら、詩の朗読を静かに聴いてください。」
	献詩係	献詩係は前に出る。 「営火は燃える 赤々と燃え まっすぐに燃え 勇気を出せと励ます」 「営火は燃える ゆらゆらと燃え 招くように燃え 豊かであれと励ます」 「営火は燃える 踊るように燃え 舞うように燃え 輪を広げようと励ます」 「私を支える営火の火はいつまでも闇を照らし 今が本番だと教える 人生には リハーサルがないと教える 私は何時間でも この火を見つめる」
	火の司	「さあ、みなさん。この火がずっと燃え続けることを祈って、『燃えろよ 燃えろ』を歌いましょう。」
	音響係	『燃えろよ 燃えろ』の曲をかける
	全員	『燃えろよ 燃えろ』の歌をうたう
6 第一部 完	火の司	「これで、第一部 迎火のつどいを終わります。さあ、第二部はみんなで楽しい時間を過ごしましょう。」

【第2部】交歓のつどい(約50～60分間)

※子どもたちが考えたゲームやスタンプなどを行い、楽しい時間を過ごし、友情を深めましょう。

【第3部】送火のつどい（約15分間）

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
○全員集合 整列	全 員	火床を中心に円になる
	営火長	火床の前に出くる
1 はじめ の言葉	火の司	「とても楽しいひとときでしたね。しかし、もう夜も深くなってきました。そろそろ私たちを照らしてくれたこの炎ともお別れをしましょう。第3部 送火のつどいを始めます。」
2 営火長の 言葉	火の司	「それでは、営火長より終わりの言葉をお願いします。」
	営火長	「大勢の友達が一つの光を中心にして、歌ったり踊ったりして、打ち解け合い、楽しく過ごしたこの時間の思い出は、皆さんにとって忘れられないものとなることでしょう。この火は消えても、いつまでも皆さんの心の中に誓いの炎を燃やし続けて、一緒に過ごした仲間を思い出してください。」
3 終わりの 言葉	火の司	「以上をもちまして、〇〇（団体名）のキャンプファイヤーを終わります。」

- 上記の一連の展開は、あくまで一例です。これを元に指導者が展開や進行、言葉などを立案、計画して、実施してください。
子どもたちと共に「全体の流れ」を計画して、子どもたち主導で各つどいを進行することも考えられます。
- 「第3部」は、「振り返る時間」として最適です。営火の周りに、グループごとに集まって、一日を振り返り、明日につなぐ時間を設定することをおすすめします。

④ 後片付け

【火床の片付け】

- 1 火床の確認
→ 薪はほとんど燃やし尽くすようにお願いします。
- 2 火床の消火
→ 水をかけて完全に火を消してください。
灰は所定の場所へ捨ててください。
- 3 「終了」の報告／用具等の返却
→ 終了時には必ず事務室へご連絡ください。
- 4 火床台車の片付け
→ 終了後すぐは、台車は熱くなっています。翌朝、つどいの前までに片付けをお願いします。

※ その後、センター職員が点検します。
片付けが不十分な場合は、ご連絡しますので、ご協力よろしくお願いします。

活動の流れ(キャンドルのつどい展開例)

※概ね「キャンプファイヤー」と流れは同じ。文言の違いがあります。

①役割分担例 (あくまで一例です。団体の実態に応じて役割分担をお願いします。)

役 割 名	人数(人)	内 容
火の司	1	プログラム全体の司会進行をします。
火の長	1	つどいの責任者で始まりと終わりに言葉を述べます。
火の女神	1	メインキャンドルの入退場や火の守への分火を行います。
火の守	4～8	分火された火を燭台に移し、誓いの言葉を述べます。
献詩係	3	「迎火のつどい」で、詩の朗読をします。
音響係・照明係	2	プログラムに合わせて音響・照明を担当します。
会場係	10	まき組みや後片付けをします。

②当日の事前準備

※当センター職員が支援します。上記「会場係」の児童生徒と指導者1～2名程度での実施が望ましいですが、指導者2～3名での実施でも構いません。

- ① 燭台、ロウソクの設置
- ② ロウソク受け、使用機器等の準備
- ③ 衣装等の受け取り
- ④ リハーサルの実施 等

③ つどいの展開

◎「開始」の報告

⇒点火前に必ず事務室へ連絡をしてください。

内線(117) / 外線(092-947-3511)

【第1部】迎火のつどい(約30分間)

次 第	役 割	言 葉・動 き等
○全体入場	全 員	燭台を中心に円になる
	女神	衣装に着用し、用意しておく
1 火の女神入場	火の司	「ただいまより、〇〇(団体名)キャンドルのつどいを行います。火の女神が聖なる火を持って入場しますので、静かに見つめてください。」
	音響係	『遠き山に火は落ちて』歌なし曲を流す
	女神	静かに入場し、燭台と参加者の間を一周し、火の長の横につく
	音響係	女神入場完了したら、音楽を止める
2 火の長はじめの言葉	火の司	「それでは、火の長よりはじめの言葉をお願いします。」
	火の長	「今、ここに皆さんの友情と団結のために聖なる火を迎えました。火は遠い昔から私たちに生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は私たちの生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることになるのです。しかし、この偉大な火も使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。」 (右ページへつづ)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
2 火の長 はじめの 言葉	火の長	(左ページより)「今、ここに燃える火は、ここに集う私たちに、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。また、このつどいが一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、楽しい思い出となるように祈りつつ、このつどいを聞きます。」
3 火の守 へ分火 誓いの 言葉	火の司	「それでは、火の神から火の守へ分火してもらいます。火の守は、火の神の前に整列しましょう。」
	火の守	火の神の前に移動し、整列する。
	火の司	「分火」
	女神	一人一人順序良く、火の守へ分火していく。 ※分火→火の守の誓いの言葉→次の人へ分火…を繰り返す。
	火の守A	わたしはこの火に「友情」を誓います。
	火の守B	わたしはこの火に「たえず努力すること」を誓います。
	火の守C	わたしはこの火に「尊敬する心を持つこと」を誓います。
	火の守D	わたしはこの火に「みんなと協力すること」を誓います。
	火の守E	わたしはこの火に「希望をもつこと」を誓います。
	火の守F	わたしはこの火に「助け合いの心」を誓います。
	火の守G	わたしはこの火に「思いやりの心」を誓います。
	火の守H	わたしはこの火に「家族を大切にすること」を誓います。
	火の司	「火の神より火の守へ分火されました。火の神と火の守は燭台のまわりに移動しましょう。」(次ページへ)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
4 点火	女神 火の守	等間隔に広がりながら、火床を囲むように、また、燭台に向かって配置につく
	火の司	「引き続き、火の神、火の守によって中央の燭台に点火をお願いします。」(少し間をとって)「点火」
	女神 火の守	「点火」の合図で、燭台のロウソクに火をつける
5 献詩	火の司	「火床に炎がともりました。皆さんが誓った思いとともに輝いています。炎を見つめながら、詩の朗読を静かに聴いてください。」
	献詩係	献詩係は前に出る。 「キャンドルは燃える 赤々と燃え まっすぐに燃え 勇気を出せと励ます」 「キャンドルは燃える ゆらゆらと燃え 招くように燃え 豊かであれと励ます」 「キャンドルは燃える 踊るように燃え 舞うように燃え 輪を広げようと励ます」 「私を支えるキャンドルの火はいつまでも闇を照らし 今が本番だと教える 人生には リハーサルがないと教える 私は何時間でも この火を見つめる」
	女神 火の守	持っているロウソク受けのロウソクの火を消し、片付ける
6 第一部 完	火の司	「これで、第一部 迎火のつどいを終わります。さあ、第二部はみんなで楽しい時間を過ごしましょう。」

【第2部】交歓のつどい(約50～60分間)

※子どもたちが考えたゲームやスタンプなどを行い、楽しい時間を過ごし、友情を深めましょう。

【第3部】送火のつどい（約15分間）

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
○全員集合 整列	全 員	燭台を中心に円になる
	火の長	燭台の前に出てくる
	女神	女神用のろうソクをもち、火の長の横につく
1 はじめ の言葉	火の司	「とても楽しいひとときでしたね。しかし、もう夜も深くなってきました。そろそろ私たちを照らしてくれたこの炎ともお別れをしましょう。第3部 送火のつどいを始めます。」
2 火の長 の言葉	火の司	「それでは、営火長より終わりの言葉をお願いします。」
	火の長	「このつどいで歌ったり踊ったりして、打ち解け合い、楽しく過ごしたこの時間の思い出は、皆さんにとって忘れられないものとなることでしょう。キャンドルの火の一つ一つは小さいけれど、5本、10本、数十本と集まると同じ目的に向かって、がっちりと手を取る灼熱の炎ともなります。人もまた一人一人は小さいですが、多くの人と手を取り合うことで、大きな力を発揮することができます。この光は皆さんの心に灯され、友情の火として明るく輝き、育てられることでしょう。いつまでも皆さんの心の中にこの火を燃やし続けて、一緒に過ごした仲間を思い出してください。皆さんの幸福と健康を願いつつ、このつどいを終わります。」
	火の司	「女神が退場します。ろうソクの火を見つめながら、静かに見送しましょう。」
	女神	燭台の火を自分のろうソクに移し、燭台と参加者の間を一周し、退場する
3 終わりの 言葉	火の司	「以上をもちまして、〇〇（団体名）のキャンドルのつどいを終わります。」

- 一連の展開は、あくまで一例です。これを元に指導者が展開や進行、言葉などを立案、計画して、実施してください。
子どもたちと共に「全体の流れ」を計画して、子どもたち主導で各つどいを進行することも考えられます。
- 「第3部」は、「振り返る時間」として最適です。営火の周りに、グループごとに集まって、一日を振り返り、明日につなぐ時間を設定することをおすすめします。

④ 後片付け

【燭台の片付け】

- ろうソクの消火
- 用具の回収
→ ろうソクやろうソク受けなど、しっかり数を確認してください。
- 落ちた ろうの清掃、燭台の片付け
→ 燭台や床に垂れたろうの清掃をお願いします。
燭台を元の場所に返却してください。
- 「終了」の報告／用具等の返却
→ 終了時には必ず事務室へご連絡ください。

※ その後、センター職員が点検します。
片付けが不十分な場合は、ご連絡しますので、ご協力よろしくお願いします。